

第4章 今後の取組に向けて

第1節 事業の方向性

旧沼津御用邸苑地の将来像として、近代の御用邸の営みを描ける地域に開かれた苑地とするため、本計画に基づき、クロマツ林の立木密度の管理を中心とした継続的な事業を実施する。

本計画に基づくクロマツ林管理は、計画的なスケジュールに基づいた日常管理の実施のほか、適正なクロマツの立木密度を維持するための補植及び除間伐の事業を実施する。

クロマツの立木密度管理における事業実施については、96頁に示したように補植及び除間伐の実施時には、樹木の健全性や周囲のマツとの相互の関係性などの観点で樹木医や、通景や展望などの観点で、景観に関する有識者等から構成する委員会を設置し、詳細な現地調査や専門的な指導のもとで計画を立案し、実施していくこととする。

また、今回の調査では行えなかった樹木の特定のための補足調査、調査結果に基づいたクロマツ林以外の樹木についての管理計画の策定も必要がある。この他、レーザ計測では得られなかった灌木や地被類などの分布状況も把握するほか、クロマツの実生木の分布状況も把握する必要がある。

さらに、年々成長していくクロマツのモニタリングを行っていく必要がある。

上記を踏まえ、今後事業として実施する事業の方向性を整理する。

①クロマツ林の立木密度管理事業の実施

- 相対幹距比の考え方に基づいたクロマツ林の立木密度の適正化を図る。
- 事業実施にあたり、クロマツ林整備指導委員会（仮）を設置する。
- 各エリア、クロマツ管理重点ゾーンごとの補植、除間伐事業を実施する。事業スケジュールは次ページに示す。

②毎木調査補完事業の実施

- 毎木調査にて実施したレーザ計測やドローン撮影データを基に、樹種の特定を行い、クロマツ林以外の樹木についての扱い等を整理し、樹木管理の考え方を整理する。
- 灌木類、地被類の植生調査及びクロマツの実生木の分布調査を行い、適切なクロマツの林床管理、後継樹の育成を図る。

③定期的なモニタリング調査

- ・クロマツ林の生育環境・生育状況を把握するため、定期的なモニタリング調査を実施する。

[定期的なモニタリング調査の内容・頻度]

調査内容	<ul style="list-style-type: none">・立木密度（樹高、胸高直径、位置、樹種 等）・生育状況（健全度調査）・林床の状態 等
頻度	5年～10年ごと程度に実施することを目標とする。

※上記に示した事業とは別に、日常的な管理は年間維持管理スケジュール計画に基づき実施する。

第2節 クロマツ林立木密度管理事業計画

クロマツ林の立木密度管理については、令和2年度より計画的に実施することとし、さらなる景観形成を目指すべく事業を実施する。

以下に各エリア、各クロマツ林管理重点ゾーンに対する事業目標年度を示す。

[エリア別の事業目標年度]

実施 エリア	クロマツ林 管理重点 ゾーン名	事業 内容	事業年度					
			令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
西附属邸	ゾーン1	計画	—					
		除間伐	—	—				
		補植	—	—				
本邸	ゾーン2 ゾーン3	計画			—			
		除間伐			—	—		
		補植			—	—		
東附属邸	ゾーン4 ゾーン5	計画					—	
		除間伐					—	—
		補植					—	—

事業終了年度：令和7年度



